

令和3年度 第3回 高石市都市計画審議会 議事録

【開催日時】 令和4年2月14日（月） 午前10時30分から開催

【開催場所】 高石市役所 別館3階 多目的ホール

【出席委員】 委員16名中13名の委員が出席され開催いたしました。

日野 泰雄 下村 泰彦 丑野 正仁
大屋 弘一 清水 明治 畑中 政昭
森 博英 久保田和典 永山 誠
大森 良男 （代理：植田 通晶）
東口 正一 藤田 政明
高橋 妙子
（以上委員13名）

【欠席委員】 濱野 洋 淵田れい子 山内 和彦

【傍聴者】 なし

【日 程】 報告第1号 高石市都市計画マスタープランの改定について
報告第2号 高石市立地適正化計画の改定について
その他

【質疑応答】

・報告題1号、高石市都市計画マスタープランの改定について

（会 長）高石市都市計画マスタープランについて意見をお願いしたい。

（委 員）富木地域の自然という構想が書かれているが、それぞれの方針において自然や農地を残すという項目がない。市街化調整区域を都市誘導することが書かれており、自然を守り、保全することが書かれていない。今後のまちづくりに活かしてほしい。

（事務局）自然については、蓮池公園の整備と併せて、市街化調整区域にある田畑がある。ただし田畑は個人の所有する土地だが、公園は市民が広く使い、感じられる緑として自然と表現している。また、市街化調整区域を市街化区域に入れることで市街化されることについては、今後検討する中で農地を続けるような一面を確保することも含めて、ある程度自然を残すことは可能と考えている。

(会 長) ほかの2地区については具体的な内容で理解しやすいが、富木の新時代が具体的にイメージしづらいので補足してほしい。

(事務局) 富木地域に関しては、ほかの地域より検討項目が多く、また、コロナの影響も含め都市計画においても新しい時代への対応が必要であると感じており、今後のまちづくりを検討していく中で取り入れていくイメージから新時代と表現している。

(会 長) 新時代という言葉は地域の特性というよりも、広い範囲に関わるような言葉であるので、富木地域について具体的な内容を表現することで、自然との融合とのつながりが分かりやすくなると思う。

(委 員) 概要版1ページに快適で居心地のよい都市づくりとあるが、現在の日本の人口構成は、少子化と超高齢化だけでなく、認知症の方と障がい者に対しての居場所づくりが重要であるので、快適で居心地のよい都市づくりの中でそのような文言を入れてほしい。

また、3ページの高石地域、羽衣地域、富木地域の、賑わい・活力が未来につながる項目において、高石と羽衣地域は魅力の向上とで同じ文言だが、富木地域の場合は魅力づくりとなっている。これにはどういう意図があるのか。3駅を中心にしたまちづくりという部分があるので、意味合いを説明してほしい。快適な居心地のよい都市づくりも、富木地域については欠落しているので、今後のまちづくりする上での必要性を聞きたい。

(事務局) まず、快適で居心地のよい都市づくりでは、説明文の内容での見直しで対応したい。人にやさしいユニバーサル等の対応があるが、反映できるように考えたい。

次に、富木地域と、高石、羽衣地域と表現が異なる点だが、高石と羽衣に関しては再開発事業などある程度の都市核づくりが進んでいると考えており、魅力の向上という表現にしている。

また、富木については、これから魅力をつくるという意味で魅力づくりという表現としている。

(委 員) 高石駅、羽衣駅、富木駅を中心に同じように栄えてほしいと提言している中で、あまりにも何か富木が遅れ過ぎている表現になっているので、魅力づくりで合やすのであれば、高石駅と羽衣駅に対しても、さらなる魅力づくりにするほうがいいのではないか。特にマスタープランであれば、その辺りを重視してほしい。

富木地域の現状を見ても、市街化調整区域や田園風景もある中で非常に居心地のよい、歩きたくなるまちである。それが抜けている点でもあるため、全体的な考え方の中に入れてほしい。

(会 長) 文言については、市全体に対して同じ支援をすることは理解できるが、この3地域について、項目ごとに全て同じことが書いてあると3地域全部一緒になる。例えば高石は職・住・遊とあるが、住が市域全体にあるとすれば職・遊が特徴となり、羽

衣はどちらかという文教というイメージがある。では、富木の具体的な将来像が何なのか。例えば住に特化するのか、あるいは高石や羽衣にない新たな魅力を考えるのか、それが今回の都市マスの中の一つの課題だと思うので、可能な範囲で検討してはどうかと思う。

(委員) その他の公共・公益施設の方針で、上水道に限らず、都市施設の老朽化は全国的に大きな課題になっている。上水道も下水道も老朽化した施設を計画的に更新すると記述していることは評価するが、概要版で、適切な維持管理に努めるだけでなく、老朽化問題をまとめのところで記述したほうがよい。未整備区域の整備も大事だが、一番大きな課題は老朽化問題だと思う。

もう一点、概要版の都市環境で、括弧で公害と書いてある。国の法律も公害対策基本法から環境基本法に変わってから年月が経っているので、公害という表現を環境としてはどうか。

(事務局) 今の意見を参考に修正する。

(会長) 次回までのできるだけ早い時期に意見をいただければ、検討材料にできると思うので、会議終了後も意見があれば事務局までお願いしたい。

(委員) 各地域の特性について、今あるポテンシャルを生かしながらいままとめるよう、もう一度事務局と検討していきたい。

私たちを取り巻く環境を考えると、戦後の高度経済成長期の1960年から70年代にかけて発生した公害問題は環境の方向に変わっていく段階で、80年代になると都市アメニティーや都市の快適性という自然環境を都市の中で共存するという動きがあった。それから、2000年に近づく地球規模での環境問題、サステイナブル（持続可能性）が言われ、生態系保全の必要性が出てきた。

最近では成熟型社会に向けて、少子高齢化問題、健康、福祉における移動をいかにバックアップするかという都市計画上の課題が出た。阪神・淡路や東日本の大震災では、安全安心が見直され、現在は技術的にはICTや情報技術が都市の大きな潮流にある。これらのテーマの中にうまく盛り込んだ計画になっていると捉えている。

各論になると、地域別で現場が見えるので、様々な意見が出る。富木の自然環境をどうするのかという意見では、明確に形が見えないかもしれないが、例えば触れ合いの場づくりの中に、都市公園の整備などの意味がある。自然環境に配慮するのは地域に関係なくしなければならぬ。全部の地域で平等性を重視して同じことを書くと、地域別の意味合いがなくなるので、潮流を受け止めて、各地域が何を目指してまちづくりを進めていくかを事務局と検討したい。

(会長) 次の議題とも関わるが、世界的にも人口減少で人口密度が薄くなり、ローカルサービスを効率的にできなくなるという時代の流れがある。1990年代からイギリス

でも、人口密度を上げていくために、都市計画の中でも、複合用途を積極的に認める地域づくりと、もう一方でストックはあるが、開発されていなかったところについては新しい市街地を形成するという2つの大きな柱を目指しているようだ。都市計画マスタープランでも、高石であれば先ほどの職・住・遊とあったように、混合用途の中で活性化して人口密度を上げる施策があるだろうし、富木では新たな市街地を形成するという施策があると思う。本日出た意見と、これから出る意見も含めて、検討したらと思う。

気づいた点があれば、事務局に連絡してほしい。

意見がなければ、日程第1、報告第1号については本日の審議会で報告済みということ終了する。

(意見なし)

【質疑応答】

・報告題2号、高石市立地適正化計画の改定について

(会 長) ウェブ側で不具合があったが、会場にいる方は説明について理解できたか。

都市計画マスタープランの全体構想や地域別構想を上位計画とし、人口密度を上げて公共サービスを効率的に提供し、コンパクト・プラス・ネットワークを実現するというので、区域を指定して、施設や居住機能を誘導するという計画である。計画としては分かりやすいが、どう実現していくかで課題があるので、意見等があれば、この後でもいいのでお願いしたい。

質問、意見がないということでもいいか。

それでは、報告第2号の立地適正化計画の改定については、3月の審議会で諮問いただいで答申する予定である。本日の審議会では報告済みということ終了する。

(意見なし)

【午後0時00分閉会】